

平成31年度

庄内自然博物館構想推進協議会

日 時：平成31年4月19日（金）10:00～12:00

会 場：鶴岡市自然学習交流館 ほとりあ

…… 次 第 ……

1. 開 会

2. 協 議

(1) 協議会役員の選任について

(2) 平成30年度事業実績について

(3) 平成30年度収支決算について

(4) 平成31年度庄内自然博物館構想推進協議会の体制(案)について

(5) 平成31年度事業計画(案)について

(6) 平成31年度収支予算(案)について

(7) 大山上池・下池の水質改善について

(8) その他

3. その他

(1) 高館山散策路について（情報共有）

(2) その他

4. 閉 会

平成31～令和2(2019～2020)年度 庄内自然博物館構想推進協議会 委員名簿

NO	所属団体	所属役職	協議会役職	氏名	備考
1	鶴岡市大山自治会	会長	会長	櫻井 修治	
2	鶴岡市西郷自治会	会長	副会長	佐藤 建三	
3	鶴岡市加茂地区自治振興会	会長		田中 正志	
4	鶴岡市湯野浜地区自治会	会長		菅原 正彦	
5	出羽商工会	大山支部代表理事		大瀧 郁夫	
6	大山観光協会	会長	監事 (H31～)	遠藤 武	
7	JA鶴岡大山支所	支所長		蛸井 宏喜	
8	庄内赤川土地改良区	理事長		本間 松弥	
9	西郷土地改良区	理事長	監事 (H31～)	佐藤 保	
10	大山公園再生協議会	副会長		阿部 清二郎	
11	庄内森林管理署	署長		高橋 守	
12	羽黒自然保護官事務所	自然保護官		澤野 歩美	
13	鶴岡市自然学習交流館ほとりあ	館長		富樫 均	
14	尾浦の自然を守る会	会長	副会長	太田 威	
15	出羽三山の自然を守る会	自然教室担当		長南 厚	
16	水野野生生物調査室	主宰		水野 重紀	
17	朝日庄内森林生態系保全センター	所長		笠井 史宏	
18	庄内自然博物館構想推進協議会運営委員会	委員長		平 智	
19	庄内総合支庁産業経済部農村計画課	農林技監兼課長		長谷部 英徳	
20	庄内総合支庁産業経済部森林整備課森づくり推進室	室長		小関 秀章	
21	庄内総合支庁保健福祉環境部環境課	課長		前田 学	
22	鶴岡市市民部	部長		渡会 悟	
23	庄内自然博物館（仮称）構想地域推進協議会	元会長	相談役	中浜 裕	
24	鶴岡市自然学習交流館ほとりあ	元館長	相談役	植松 芳平	
25	庄内自然博物館構想推進協議会	前会長	顧問	橋本 正輝	
26	鶴岡市自然学習交流館ほとりあ	前館長	顧問	遠見 昌圀	
-	鶴岡市農林水産部農山漁村振興課	農林水産部参事 (兼)農山漁村振興課長	オブザーバー	本間 明	
-	鶴岡市建設部土木課	課長	オブザーバー	仲川 繁	
-	鶴岡市健康福祉部子育て推進課	課長	オブザーバー	渡会 健一	
-	鶴岡市商工観光部観光物産課	課長	オブザーバー	阿部 知弘	
-	鶴岡市教育委員会学校教育課	課長	オブザーバー	尾形 圭一郎	
-	鶴岡市教育委員会スポーツ課	課長	オブザーバー	齋藤 匠	
事務局	鶴岡市市民部環境課	課長		伊藤 慶也	
事務局	鶴岡市市民部環境課	主事		佐藤 英世	
事務局	鶴岡市市民部環境課	主事		北山 幸平	
事務局	鶴岡市市民部環境課	学芸員		上山 剛司	

2. 協議

(2) 平成30年度事業実績について

—会議経過報告—

1. 協議会

期 日：4月19日（木）

会 場：鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」

協議内容：H29年度事業報告・収支決算、H30年度事業計画・収支計画
ラムサール条約登録湿地10周年事業等

2. 運営委員会

(1) 第1回運営委員会

期 日：5月18日（金）

会 場：鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」

報告内容：H29年度事業報告、外部助成事業における採択額、
ラムサール条約登録湿地10周年事業等

協議内容：H30年度事業計画（案）、WGの活動計画、普及啓発物等

(2) 第2回運営委員会

期 日：12月13日（木）

会 場：鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」

報告内容：H30年度事業中間報告、ラムサール条約登録湿地10周年事業報告

協議内容：寄附金事業、ラムサール関連事業、外来生物活用プロジェクト

(3) 第3回運営委員会

期 日：3月11日（月）

会 場：鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」

報告内容：H30年度事業報告、WG活動報告等

協議内容：H31年度事業計画（案）等

3. ラムサール条約登録10周年記念事業 実行委員会

10周年記念事業の内、特に式典・シンポジウムの運営に関する内容を協議した。11月10日のシンポジウム当日は運営にもご協力いただいた。

(1) 第1回実行委員会

期 日：6月25日（月）

(2) 第2回実行委員会

期 日：10月3日（水）

(3) 第3回実行委員会

期 日：11月28日（月）

(2) 平成30年度 協議会事業・ほとりあ事業 運営報告

1. 来館者数 (別紙①参照)

○2018年4月～2019年3月の入館者数：24,935人 稼働日数308日(平日193日、土日祝115日)

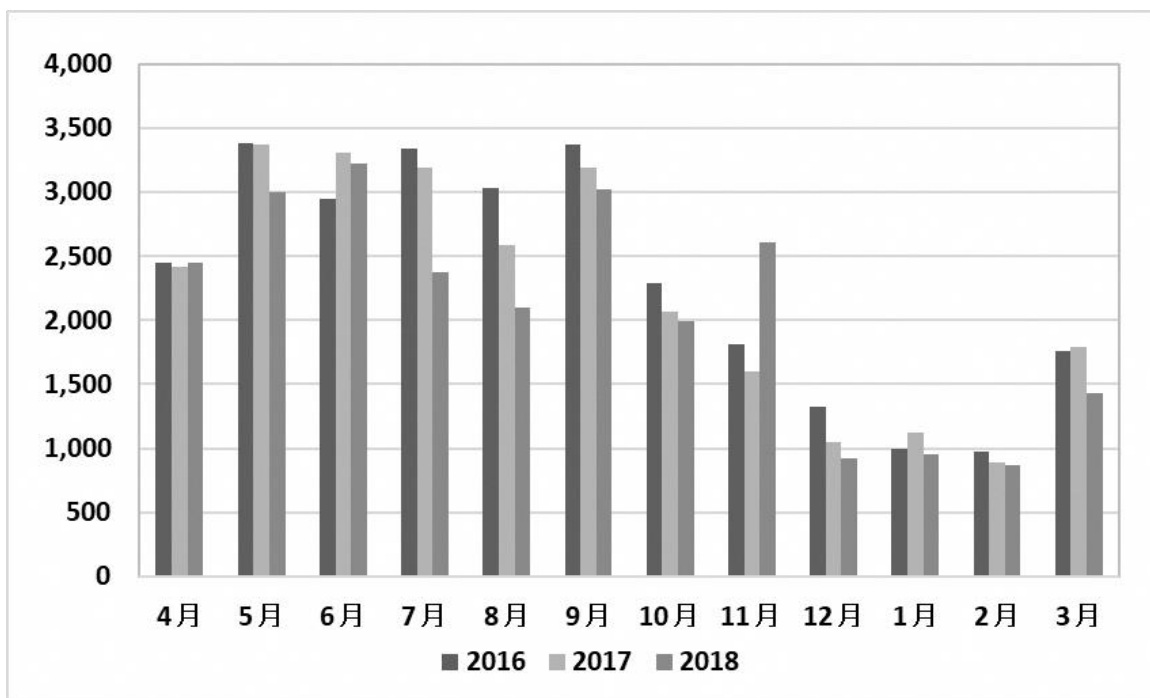
1日平均：81.0人、平日平均：58.4人、土日祝日平均：118.92人

○2017年4月～2018年3月の入館者数：26,563人 稼働日数308日(平日193日、土日祝115日)

1日平均：86.2人、平日平均：65.9人、土日祝日平均：120.3人

○開館からの来館者総数は、189,634人 (2018年7月中に20万人突破予定)

*2016～2018年度4月から3月までの月別の来館者数のグラフを下記に示す。



2. 学習交流室

2018年度 85団体、1,134人(学習31、研修16、会議13、レクリエーション25、視察0)

*2017年度 76団体、1,825人(学習36、研修13、会議10、レクリエーション16、視察1)

年度	学習		研修		会議		レクリエーション		視察		その他	
	2017	2018	2017	2018	2017	2018	2017	2018	2017	2018	2017	2018
4月	1	2	1	2	3	2		1				
5月	2	3		1	2	1		3				
6月	7	9		2		1	5	4				
7月	6	3	1	2		2	4	3				
8月	5	1	1	1		1		2				
9月	4	4	4	5		1	1	3				
10月	3	4	1	1	1	1	2	2				
11月	4		1		1	1	2	1				
12月	1	1	1			2		1				
1月	1	2	1	2	1		2	2	1			
2月	1	2	1		1			1				
3月	1		1		1	1		2				
合計	36	31	13	16	10	13	16	25	1	0	0	

3. イベント事業報告

(1) イベント

4月～3月までのイベント参加者：1,647名 **(別紙②参照)**

里地里山学講座：5回(110名)、自然観察会：4回(79名)、散策会：5回(47名)、湿地保全管理イベント：5回(154名)、里山マルシェ：1回(360名)、地域連携事業：11回(100名)、ワークショップ：23回(575名)、クリスマスコンサート：1回(60名)

*2017年度は1,217名、2016年度は1,421名

(2) その他の主なイベント

(2)－1. 水辺のいきもの探しスタンプカード事業

湿地のいきものに親しむことと市民参加の外来生物駆除を目的に4月下旬から10月の期間に実施。531名(2017年度：466名)の方に参加いただいた。

(2)－2. 赤とんぼプロジェクト(自然観察会として実施)

避暑地である月山でアキアカネにマーキングを施し、避暑地から産卵場所までの移動経路の解明を市民参画で行う環境学習を実施。協力：水野重紀氏。

マーキング個体は1,695個体(オス：897、メス：798)。

秋には都沢湿地や庄内平野でマーキング個体の追跡を行ったがみつからなかった。

これまでのマーキング個体数は約5,000個体。

(2)－3. 里山マルシェ

11月10日(土)に開催。今年は大山上池・下池のラムサール条約湿地登録10周年を記念して、テーマを「渡り鳥」として開催。渡り鳥の段ボール迷路やお面づくりなど新たなアクティビティを加え、多くのサポーターの協力のもと約360名の方にご参加いただいた。

(2)－4. コハクチョウの初飛来日あてコンテスト

応募数：262名(2017年度：246名、2016年度：162名)、

正解者27名(正解は10月5日 上池、下池)

(2)－5. 里地里山先進地視察研修

開催日：2018年6月12日(火) 参加者：8名(サポーター、スタッフ)

視察先：鶴岡市域のため池

内容：鶴岡市域のため池をめぐり、外来生物の生息の有無が水生生物相に与える影響について研修を通して考えた。



コハクチョウのねぐら入り観察会
(自然観察会)



里地里山学講座
(かいぼりの話)

4. 館内展示

今年度は、大山上池・下池 ラムサール条約登録 10 周年記念事業として、大山在住の写真家・太田威氏の「宝の上池・下池 今昔 豊饒の池 豊かな恵みと人との繋がり」と題した写真展や冬の渡り鳥展示、外来生物企画展示などを開催。10 月からはまったり Café 横の縁側で柿のれんを実施した。



太田威氏「宝の上池・下池 今昔 豊饒の池 豊かな恵みと人との繋がり」展

5. 都沢湿地保全管理事業

(1) 外来動植物駆除

サポーターや有償事業にて、都沢湿地内の外来動植物駆除を実施。

(1)-1. イベント実績 ***別紙③、④参照**

今年度は5回開催し、154名(1回あたりの平均30.8名)の方に参加いただいた。今年度は、2016年度から参画しているソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社山形テクノロジーセンターさんに加え、朝暘ライオンズクラブさんからも参画いただき、4年ぶりに1回の平均参加者数が30名を超えた(2017年度:145名、平均24.2名)。

(2) 通常管理

湿地内に生育するヤナギに関しては、ほとりあスタッフ、サポーターで冬～春にかけて伐採を実施。その他にも冬季水門の堆積物の除去などを実施。

6. 都沢湿地保全管理事業(生物編)

(1) ウシガエル成体及び幼体の捕獲状況

(1)-1. 捕獲日数及びワナ数

5月12日～10月25日の期間に**48日間**、**4,550罫**を設置し、捕獲調査を実施。

(2017年度:38日間、2,356罫)

(1)-2. 捕獲結果

- ・【成体】**428**個体のウシガエル成体を捕獲。(2016年:1,139個体、2017年:799個体)
→成体428個体のうち雌雄判別できた個体は**342**個体。(オス:125個体、メス:217個体)
- ・【幼体】**72**個体のウシガエル幼体を捕獲。(2016年:3,564個、2017年:266個体)

(2) アメリカザリガニ捕獲状況

(2)-1. 捕獲日数及びワナ数:ウシガエルと同じ。

(2)-2. 捕獲結果:**19,013**個体(大**15,024**個体、小**3,989**個体)のアメリカザリガニを捕獲。

(2016年:18,880個、2017年:10,383個体)

7. 都沢湿地保全管理事業(その他)

(1) 西郷土地改良区との共同作業

開館から毎年1回、西郷土地改良区と下池堤体内の外来植物駆除を実施している。2017年度はアメリカセンダングサがほとんどみられなかったが、今年度はアメリカセンダングサ、オオオナモミの生育が多数確認され、その駆除作業を行った。水位低下により外来植物の生育が促進されたものと考えられる。

8. 調査研究

(1) 大山上池・下池及び都沢湿地(親水水路)の水質浄化に関する研究

調査者：山形大学農学部 助教 梶原 晶彦

(2) 大山上池・下池、都沢湿地における植生に関する研究

調査者：山形大学農学部 教授 林田 光祐

(3) 都沢湿地のトンボ相の調査

調査者：水野野生生物調査室 主宰 水野 重紀

9. 普及啓発物の作成

(1) 2016～2017年度 活動報告書

130部作成

(2) 都沢湿地リーフレット

4,500部作成、セブン-イレブン環境活動基金助成

(3) 大山上池・下池パンフレット

1,000部作成、荘内銀行ふるさと創造基金助成

(4) Newsレターの作成

(5) 渡り鳥の帽子やぬいぐるみ



渡り鳥の帽子



渡り鳥のぬいぐるみ
(コハクチョウ幼鳥)

10. サポーター活動

2019年3月末現在のサポーター数は**92名**(2018年3月末時点88名、2017年3月末時点74名)。

サポーター券発行枚数は583枚(2018年3月末695枚、2017年3月末590枚)。

(2) 大山上池・下池ラムサール条約登録湿地 10 周年記念事業 報告

1. 記念事業について

1-1. 自然観察会

10月20日、太田威氏を講師に迎え「コハクチョウねぐら入り観察会」を実施した。

1-2. 里地里山学講座

特に上池・下池に関わりの深い内容として、オープニング講座「大山上池と下池の湿生植物の特徴～ラムサール条約登録10年目の現状～」(山形大学農学部教授 林田光祐氏)、第二回「大山上池・下池が渡り鳥の楽園となる前の両池と人のかかわり」(太田威氏)、第三回「池の水をぬく本当の目的とは～テレビでやらない『かいぼり』のはなし～」(認定NPO法人生態工房理事 片岡友美氏)を開催した。

1-3. 企画展示事業

過去の上池・下池の自然資源の活用について、太田威氏による写真展「宝の上池・下池 今昔 豊饒の池 豊かな恵みと人との繋がり」を7月～9月にかけて開催した。

1-4. コンテスト

(1) 「大山上池・下池、高館山、都沢湿地の自然を写真で残そう！」写真コンテスト

中学生以上を対象とし、平成29年12月より周知、平成30年7～8月を応募期間として実施。野生生物の撮影に対するマナーをチラシに掲載し、配慮を求めた。

計84点、33名から応募いただいた。61～80歳が応募者の7割を占めた。

(2) 「大山上池・下池、高館山、都沢湿地の自然を描こう！」絵・塗り絵コンテスト

平成30年8月より周知、平成30年8～10月を応募期間として実施。

絵部門は年齢不問、塗り絵部門は小学校3年生以下を対象とした。

絵部門は計15点、塗り絵部門は個人・団体応募を併せ611点の応募をいただいた。

本塗り絵コンテスト入賞作品は、10周年記念式典・シンポジウムの来場者記念品として配布された米袋のデザインとして活用した。

1-5. ワークショップ

(1) こどもラムサールワークショップ in 大山上池・下池

平成30年4月より参加者を公募し、計11名が参加し計5回（5月、6月、7月、10月、11月）の体験・学習及び成果発表を実施した。7月、10月はほとりあ初の宿泊事業。

(2) おうら愛鳥館に描きたいきものたちに色をぬろう！ ワークショップ

5月10日に愛鳥館のペンキ塗りを実施。5月26日、東北芸術工科大学 鈴木さんを講師に、鈴木さんの下絵に色を塗るWSを開催し、愛鳥館をリニューアルした。

(3) 大山下池の役割を考えようワークショップ

5月19日に「田植え体験編」、9月13日に「収穫体験編」として実施。馬町さくらファームさんを講師に、下池の水を使った田で稲の手植え・手刈りを体験するワークショップを実施した。収穫した稲穂は12月16日のしめ縄リースづくりWSでも活用予定。

1-6. 制作物

(1) 大山上池・下池 パンフレット

荘内銀行ふるさと創造基金を活用し、パンフレットを作成した。デザイン・印刷はプロポーザル方式による業者選定を実施（事業者：有限会社プランニングゆうむ）。

(2) 大山上池・下池プロモーションビデオ

両池のプロモーションビデオを、ドローンを用いて作成。これまで訪れたことがない人が興味を抱くよう、四季の自然・風景を中心とした内容とした。作成にあたっては、野生生物への影響を低減するよう配慮し、協議のうえ実施した（撮影・製作：フレームワークス写真事務所）。
現在、Youtubeで公開中。

1-7. 実行委員会

10周年記念事業及び記念式典の運営に際し、公募及び運営委員、ほとりあサポーターの皆様より参集いただき、実行委員会を組織した。平成30年1月の準備委員会、2月の意見交換会を経て、6月、10月、11月に実行委員会を開催。事前周知及び当日の運営にもご尽力いただいた。本委員会は、第三回（11月）をもって解散した。

2. 11月10日 記念イベントについて

2-1. 来場者数

里山マルシェ	式典・シンポジウム第一部 (式典・児童発表・表彰式)	シンポジウム第二部 (話題提供・パネルディスカッション)	祝賀会
360名	200名	80名	40名
	最大 200名		

※いずれも事務局（ほとりあスタッフ、環境課、運営協力サポーター）を除く

※会場間連絡バス利用者数 往路 [ほとりあ発→大山 CC・市役所経由→出羽庄内国際村]：8名

復路 [出羽庄内国際村発→大山 CC]：1名

※祝賀会参加者は会場であるグランド エル・サンのバスで大山方面へ

2-2. 報道関連

事前周知：報道各社（市よりプレスリリース、11/2 市長記者会見で直接取り上げ）

アークベルグループ広報誌「感動 navi」11月号表紙、及び「Cradle」11月号に告知掲載、

山形新聞 10.31 記念記事掲載

読売新聞 11.6 「外来生物を食べる会」記事で式典・シンポ開催告知

当日取材：荘内日報、山形新聞、コミュニティしんぶん、鶴岡タイムス

事後報道：荘内日報（11.11 里山マルシェ、11.13 式典・シンポジウム）

鶴岡タイムス（11.15 号表紙）

コミュニティしんぶん（11.30 号 ラムサール条約に関する記事を掲載）

朝日新聞（12.16 山形版記事「根ほり葉ほり」に林田光祐教授のインタビュー掲載）

荘内日報（1.1 新年号に 10 周年記念事業特集記事を掲載）

2-3. 式典・シンポジウム内容報告

(1) オープニング

大山小学校 4 年生児童 10 名による総合学習発表。外来生物や水質、ヒシなどに関して調べた内容が発表された。会場へヒシの食味を問いかけるクイズ等もあり、柔らかい雰囲気となった。

(2) 記念式典

○挨拶

庄内自然博物館構想推進協議会 櫻井会長、鶴岡市 皆川市長、来賓として環境省 東北地方環境事務所 中島次長よりご挨拶を頂戴した。

○大山上池・下池プロモーションビデオ上映

10 周年記念事業として制作した同 PV（7 分 25 秒）を上映した。ドローンによる空中撮影を含めた四季の映像に、会場からも声が挙がっていた。

(3) シンポジウム第一部

○こどもラムサールワークショップ発表「上池・下池とわたしたち」

4月から10月にかけて両池を学んだ同ワークショップ参加者、有志8名による発表。体験した活動を発表するとともに、自分たちで議論し考えた「池を未来に残していきたい」とのメッセージを、寸劇を交えて参加者に投げかけた。

○写真コンテスト、絵・塗り絵コンテスト表彰式

10周年記念事業として実施した両コンテスト入賞者21名の内、当日ご来場いただいた18名に表彰を行った。また審査委員長よりご講評をいただいた。

(4) シンポジウム第二部

○話題提供① 大阪府・山田池公園の「池の水ぜんぶ抜く」取り組み

同公園管理事務所 日渡氏より、テレビに取り上げられたため池の水抜き（池干し）事例を番組映像ダイジェストとともに紹介していただいた。上池より小さい（10ha）ものの、同公園での水抜きは大がかりな取り組みと感じられ、当地での実現の可否について参考となる内容だった。

○話題提供② 人々の生活と両池の関わり

尾浦の自然を守る会 太田氏より、昭和中後期の池の様子や人々の生活に関して、写真とお話で紹介いただいた。池や湿地からの産物や水の利用など、現在では失われた池との関わりについて会場で共有する時間となった。

○話題提供③ 人との関わりで変わる上池・下池の植生

山形大学農学部 林田教授より、本年5月の里地里山学の内容を踏まえて発表いただいた。農業用水利用による水位変動が植物に与える影響と、両池の水位の差が植物の生育の差として生じているとの解説で、人間の利用が環境に与える影響の大きさを実感した。

○パネルディスカッション

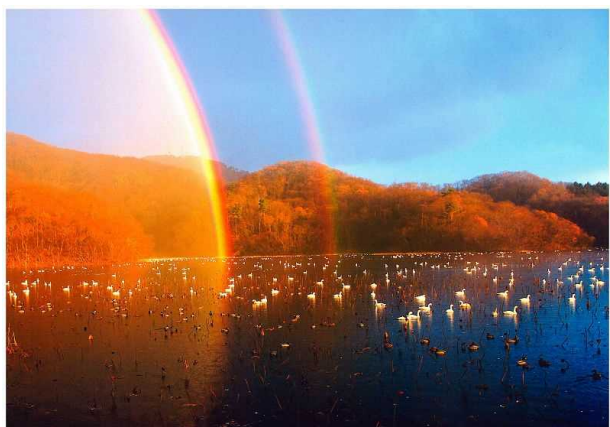
上記話題提供者に、浮草組合 田中氏、西郷土地改良区 佐藤氏に加わっていただき、計5名によるパネルディスカッションを行った（コーディネーター：林田教授）。

池の恵みであるハス等の植物、農業用水を利用されている立場の方からの意見を聞き、今後の両池の課題のひとつである水質改善にどのように取り組むべきか、意見が交わされた。農業者の利用期、冬鳥の渡来期に配慮し、関係者で協議すれば水を抜くことも可能であろうとの意見も出された。最後は、こどもラムサールワークショップからのメッセージに対し、「子供たちが語った未来を、大人が責任を持って実現させるべきだ」との林田教授のコメントで締めくくられた。

(5) 記念祝賀会

同日夜、グランド エル・サンで開催した。10年前の登録時に訪韓したメンバーの方からもご参加いただき、過去と現在の関係者の交流の場となった。

ラムサール条約登録湿地 10周年記念事業 写真



写真コンテスト ラムサール条約登録湿地賞
「晩秋の上池」



塗り絵コンテスト ラムサール賞
「空をとぶとり」



ワークショップ「おうら愛鳥館に描きたいきもの
たちに色をぬろう！」でのリニューアル



ワークショップ「大山下池の役割を考えよう」
での田植え体験



10周年記念シンポジウムでの「こどもラムサール
ワークショップ」メンバーによる寸劇



シンポジウム内でのパネルディスカッション

(3)平成30年度 庄内自然博物園構想推進協議会 収支決算

平成30年度 セブン-イレブン記念財団 環境市民助成

収 入

単位:円

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
セブン-イレブン活動助成	767,100	767,100	0	
雑収入(預金利息)	0	4	4	
合計	767,100	767,104	4	

支 出

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
外来生物の低密度管理による持続可能な低湿地再生手法の検討				
(1)消耗品費	29,808	29,808	0	アナゴ籠
(2)活動報告費	81,000	80,919	△ 81	湿地再生のリーフレット印刷費
(3)建設設備工事費	605,912	602,694	△ 3,218	外来生物排除区域(材料費)
(4)旅費交通費	50,380	49,930	△ 450	航空券(東京-庄内)講師宿泊費
合計	767,100	763,351	△ 3,749	

収入 767,104円 - 支出 763,351円 = 3,753円 ※残金は財団へ返金

平成30年度 庄内銀行ふるさと創造基金 助成金

収 入

単位:円

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
庄内銀行ふるさと創造基金	90,000	90,000	0	
雑収入(預金利息)	0	0	0	
合計	90,000	90,000	0	

支 出

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
大山上池・下池 ラムサール条約登録10周年を機会に考える湿地の魅力と体験ワークショップの開催				
(1)印刷製本費	90,000	89,964	△ 36	ラムサール条約登録湿地パンフレット印刷費
(2)通信費	0	36	36	こどもラムサールWS切手代不足分
合計	90,000	90,000	0	

収入 90,000円 - 支出 90,000円 = 0円

環境保全応援寄附金

単位:円

収入		支出	
(1)H29年度繰越	62,431	(1)ラムサール10周年事業	24,925
(2)団体・個人からの寄附(団体2件、個人4件)	22,000	※記念Tシャツ作成、PV編集謝礼、切手代	
(3)寄付金箱による寄附(ほとりあ設置)	16,550		
(4)イベントでの寄附(10周年記念式典・祝賀会)	20,370		
(5)雑収入(預金利息)	0		
収入計	121,351	支出計	24,925

収入 121,351円 - 支出 24,925円 = 96,426円 ※H31年度への繰り越し

監 査 報 告 書

平成30年度庄内自然博物館構想推進協議会の会計監査にあたり、収入支出に伴う収支決算書及び現金出納簿、収支関係証票、預金通帳を慎重に審査した結果、いずれも正確かつ適正であることを認めます。

平成31年 4 月 12 日

庄内自然博物館構想推進協議会
会 長 櫻 井 修 治 様

庄内自然博物館構想推進協議会

監事 西郷土地改良区 理事長 佐藤 保 印
監事 庄内赤川土地改良区 理事長 本間 松 琢 印

(4) 平成31年度庄内自然博物館構想推進体制(案)及び会議予定(案)

■ 組織

(1) 庄内自然博物館構想推進協議会(年1回開催) 4月19日(金)

(2) 運営委員会(年3回開催) 5月中旬、10月中旬、2月下旬

- ・構想及び中長期の計画を受けて、年次の運営計画(活動計画)を策定する。
- ・各事業、イベントの企画、実施はそれぞれのワーキンググループを基本とし、全体的な調整及び情報の共有を図る。

(3) 関係機関調整会議(必要に応じて随時開催)

- ・構想推進のため情報を共有し、課題について関係機関・団体等と調整を図る。

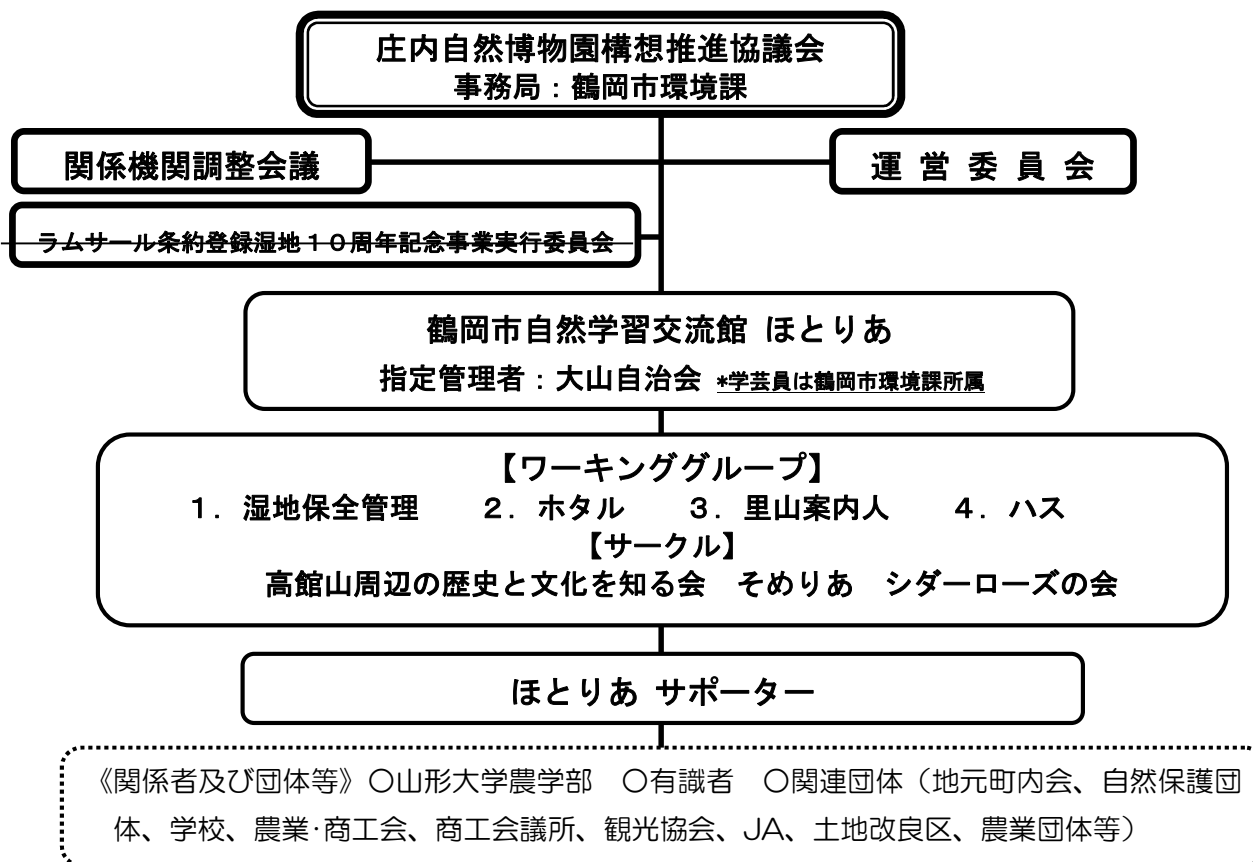
(4) ワーキンググループ

- ・同じ活動目標を持った運営委員及びサポーターはワーキンググループを設立することができることとし、事務局及び他のグループ間との連絡を密にする。

(5) サポーター制度

- ・事業の充実を図るために活動の補助を行うサポーター制度を実施する。
- ・サポーターは高校生以上とし、里山の保全活動、自然環境教育、里山利活用推進の3つの活動を中心に、施設の運営補助などの活動を行う。
- ・1回のサポーター活動につき、1枚のサポーター券を配付する。

(6) ラムサール条約湿地登録10周年記念実行委員会(H30年11月で解散)



(4) 庄内自然博物館構想推進協議会 ワーキンググループ&サークルリスト

NO	分類	グループ名	設置目的	今年度の活動内容	設置年月日	リーダー	構成員	備考
1	WG	保全管理	長年、都沢湿地の保全管理を行っている有識者により、湿地における課題を整理し、本地での中長期的な保全管理計画を作成するため	<ul style="list-style-type: none"> ・都沢湿地の保全管理計画の作成 ・年5回の保全管理イベントの実施 	2012年4月	林田光祐	8名	
2	WG	ホテル	ほとりあ周辺のホテル生息確認と本種の生息環境保全のためのWGを設置	<ul style="list-style-type: none"> ・都沢湿地のホテル成虫調査 	2014年5月1日	渡部志津	6名	
3	WG	里山案内人	来館者や散策者からの散策案内の希望にこたえられるように散策案内人制度を確立するためにWGの設置	<ul style="list-style-type: none"> ・春の散策会の実施 	2016年4月1日	富樫捷士	7名	
4	WG	ハス	都沢湿地・どろんこ広場区域への正法寺水路のハスの移植及びハスの題材とした環境教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・都沢湿地に移植したハスの管理および普及啓発事業 	2015年4月1日	植松芳平	6名	
5	サークル	高館山周辺の歴史と文化を知る会	高館山周辺の歴史や文化を調査し、地域資源として後世に伝えていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の定例会の開催 ・春、秋の探訪会の開催 	2013年5月1日	遠見昌罔	10名	
6	サークル	そめりあ	ほとりあのサポーターを中心とした草木染サークル。いくいくは、保全管理活動と協働での活動も検討している。	<ul style="list-style-type: none"> ・草木染め活動 ・各種事業への協力 	2016年4月1日	荻野重子	10名	*2019年度代表交代
7	サークル	シダローズの会	ほとりあのサポーターを中心とした木エクラフトや手芸サークル。	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の定例会の開催 ・各種事業への協力 	2018年4月1日	石川文子	5名	

(5) 平成31年度協議会事業・ほとりあ事業の計画(案)

1. 保全管理事業

1-1. 外来生物駆除(ウシガエル、アメリカザリガニ)

実施期間：5月～10月

実施場所：都沢湿地、下池周辺も検討

体制：有償活動(約180時間)

1-2. 外来植物駆除(セイタカアワダチソウ、ブタクサ、アメリカセンダングサなど)

実施期間：5月～10月

実施場所：都沢湿地、下池堤体(所有：西郷土地改良区)

体制：サポーター、地域、企業活動など(*活動状況を見ながら有償活動も検討)

1-3. 外来生物排除区域内の動植物調査

実施場所：都沢湿地北側区域

目的：都沢湿地内にウシガエルやアメリカザリガニが侵入できない区域を設置し、水性動植物の回復をはかる。

その他：本事業は、2017年度に経団連自然保護基金採択事業として開始し、2018年度にはセブンイレブン活動助成によって新たに区域を設置した。

1-4. 草刈り作業

実施期間：年3回(6, 8, 10月)

実施場所：都沢湿地

体制：有償活動

1-5. 湿地保全管理イベント事業

実施数：年5回(今年度は5回)

体制：保全管理ワーキンググループ

参加条件：サポーターおよび関係機関や地域住民

1-6. 巡視事業

実施期間：4月～3月

実施場所：高館山、下池湖畔、都沢湿地

体制：有識者への個人依頼(無償活動)

1-7. みまもり隊事業

実施期間：4月～3月

実施場所：高館山、下池湖畔、都沢湿地

体制及び内容：サポーターを中心に貴重植物の盗掘防止や事業の普及啓発活動として実施。

2. 自然学習事業

2-1. 自然観察会

実施数：年6回(今年度5回)

体制：講師およびスタッフ、サポーター

2-2. 里地里山学講座

実施数：年4回（今年度4回）

体制：講師：4回

2-3. 里地里山学講座 特別講座

実施数：年2回（今年度2回）

体制：講師：2回

2-4. 座談会

実施数：年2回（今年度2回）

体制：スタッフ、ワーキンググループ

内容：地域資源の活用方法をテーマに実施予定。

2-5. アメリカザリガニ捕獲大作戦（今年度2回）

実施数：年2回

体制：スタッフ、サポーター、参加団体

内容：参加団体毎の都沢湿地全体のアメリカザリガニ駆除

2-6. 都沢湿地こどもワークショップ

参加者：庄内地域の新小学4年生～新中学2年生までの児童、生徒

内容：都沢湿地の自然や歴史について調べ、現状と課題について考える。

2-7. 水辺のいきものスタンプカード事業

実施期間：4月～9月

内容：水網の貸し出しおよび水辺のいきもの学習事業

2-8. 自然散策会

実施数：春（4月、3月）10回（今年度8回）

体制：里山案内人ワーキンググループ

内容：都沢湿地、下池、高館山を案内人と一緒に散策するイベント

2-9. どんご広場活用事業

実施数：年2回

体制：地元保育園を招待、関係団体との共催事業

2-10. 学習発表会

開催日：2020年3月第1週の土曜日を予定

2-11. ワークショップ事業（有償）

目的：身近な自然環境への興味関心を高める若年層向け、親子向けWS

実施数：年10回

内容：野草茶づくり、ヨシ紙づくり

体制：サポーターおよび地域住民

参加条件：申込みあり、参加費あり

2-12. ワークショップ事業（無償）

目的：身近な自然環境への興味関心を高める若年層向け、親子向けWS

実施数：年10回

内容：折り紙、童謡、絵本の読み聞かせ、いきものミッケなど

体制：サポーター

参加条件：申込みなし、参加費なし

3. ラムサール条約登録湿地事業

3-1. いきもの絵・塗り絵コンテスト

市内及び庄内地域の幼保・小学生を対象に開催を検討。

3-2. コハクチョウの初飛来日あてコンテスト 2019

3-3. 普及啓発物の作成

ラムサール 10 周年記念事業の冊子の作成

3-4. 写真・絵・塗り絵コンテスト入賞作品巡回展

ラムサール 10 周年記念事業として開催した写真・絵・塗り絵コンテストの入賞作品を鶴岡市の地域庁舎を中心に巡回展を実施予定。

4. 外部資金採択事業

4-1. セブンイレブン活動助成（申請 2 年目、採択決定）

- ① 申請名「外来生物の低密度管理や埋土種子による湿地再生と環境教育の実践」
- ② 申請額：701,364 円
- ③ 申請内容：埋土種子観察の顕微鏡、学習会講師費等

4-2. 公益信託 荘内銀行ふるさと創造基金（申請 2 年目、申請中）

- ① 申請名「都沢湿地のトンボ相の解明と環境教育の実践」
- ② 申請額：280,000 円
- ③ 申請内容：都沢湿地のトンボ相のリーフレット製作費、学習会講師費等

5. 里山活用事業

5-1. 薪確保作業

実施期間：4 月～10 月

体制：スタッフ及び有償活動

5-2. 里山マルシェ

実施期間：年 1 回（9 月実施予定）

体制：ひとりあスタッフおよびサポーター中心に企画、実施。

5-3. 外来生物活用プロジェクト（店舗への食材提供）

提供物：ウシガエル、アメリカザリガニ

提供店舗：鶴岡市内の飲食店提供予定

5-4. 外来生物活用プロジェクト（粉末化プロジェクト）

対象種：アメリカザリガニ

目的：駆除数増加が予想されるアメリカザリガニを資源として活用。

また、外来生物の導入経緯等、環境学習のツールとしても活用する。

5-5. 湿地資源活用事業

体制：ワーキンググループ

内容：刈取りをする大型湿性草本のヨシやマコモの有効活用を検討

6. 展示事業

6-1. 企画展示

回数：年4回程度

内容：大山上池・下池、愛鳥週間、外来生物展示、水生昆虫展示など

6-2. 館内展示

里山情報掲示板や野鳥情報の更新

7. 調査研究

7-1. 大山上池・下池都沢湿地植生調査

委託：山形大学農学部 林田 光祐 教授

7-2. 大山上池・下池水質調査

委託：山形大学農学部 梶原 晶彦 助教

7-3. 都沢湿地のトンボ調査（*普及啓発物の作成）

調査依頼：水野重紀 氏（水野野生生物調査室）

7-4. UAVによる湿地環境解析の可能性調査

飛行委託：フレームワークス写真事務所（齋藤圭介氏）

7-5. 未利用資源（ヨシ）の生育および成分に関する研究

自主：山形大学農学部 作物生産学研究室（藤井教授、森准教授）

7-6. ワーキンググループ、サークルなどのサポーター調査活動

- ・ホタルの生息やギフチョウの産卵調査
- ・ハスの発芽および移植実験
- ・自動撮影装置による野生生物調査
- ・指標生物種のモニタリング調査
- ・高館山周辺の歴史文化
- ・里山の資源を活用した草木染め

8. 先進地視察事業

8-1. 里地里山先進地視察

開催：年1回程度、対象者：関係機関、サポーター、ほとりあ、環境課

9. 地域交流連携事業

9-1. 大山地域まつり連携事業

大山公園さくらまつり、大山新酒酒蔵まつりとの連携

9-2. 高館山少年教室への協力

9-3. 就労支援施設の実習の受入

鶴岡市内の就労支援施設より実習の受入依頼があり、年2回ほどの受入を検討。

9-4. 鶴岡第五中学校地域学習の受入

5月11日に実施予定。

9-5. 第52回山形ブロック大会鶴岡大会への出展

7月6日に荘銀タクトで開催。

10. 連携事業

10-1. 森林文化都市関連施設連携事業

市内にある自然学習施設との連携事業を検討

11. 普及啓発物作成

11-1. 活動報告書の制作

2018年度の年間活動報告書を作成

11-2. NEWS レターの作成

協議会および施設の1年間の活動を報告する誌面（年1回発行予定）

11-3. 施設および周辺自然情報リーフレットの作成

11-4. その他

缶バッジやぬいぐるみなどPRグッズの開発

(6)平成31年度 庄内自然博物園構想推進協議会 収支予算(案)

平成31年度 セブン-イレブン記念財団 環境市民助成

収 入

単位:円

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較	備考
セブン-イレブン活動助成	701,364	767,100	▲ 65,736	
合計	701,364	767,100	▲ 65,736	

支 出

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較	備考
H31申請:外来生物の低密度管理や埋土種子による湿地再生と環境教育の実践				
(1)消耗品費	76,100	29,808	46,292	プラ舟、コンクリートブロック
(2)活動報告費	0	81,000	▲ 81,000	湿地再生のリーフレット印刷費
(3)広告費	51,840	0	51,840	防水看板作成
(4)備品費	169,020	0	169,020	デジタル顕微鏡、水中ポンプ等
(5)建設設備工事費	354,024	605,912	▲ 251,888	湿地土壌攪乱
(6)旅費交通費	50,380	50,380	0	航空券(東京-庄内)講師宿泊費
合計	701,364	767,100	▲ 65,736	

※H31.4.12 採択通知

平成31年度 庄内銀行ふるさと創造基金 助成金

収 入

単位:円

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較	備考
庄内銀行ふるさと創造基金	(280,000)	90,000		申請中(申請額280,000円)
合計	(280,000)	90,000		

支 出

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較	備考
H31:都沢湿地のトンボ相の解明と環境教育の実践(申請中)				
(1)印刷製本費	(90,000)	90,000	0	トンボ相リーフレット印刷費
(2)会場使用料	(150,000)	0	150,000	イオン三川店
(3)報償費	(40,000)	0	40,000	グッズ製作謝礼、講師謝礼
合計	(280,000)	90,000	190,000	

※本助成は現在申請中であり、採択の是非及び金額については未定

環境保全応援寄附金

単位:円

収入		支出案	
(1)H30年度繰越	96,426	(1)ラムサール10周年事業関連	
(2)団体・個人からの寄附		※10周年記念事業とりまとめ(冊子化)等	
(3)寄付金箱による寄附(ほとりあ設置)		(2)外来生物活用プロジェクト関連	
(4)イベントでの寄附		※粉末化プロジェクト等	
収入計	96,426	支出	

※今年度も引き続き寄附金の周知を進めるとともに、寄附金から上記事業への支出を検討したい。

(7) 大山上池・下池の水質改善について

1. ラムサール条約登録湿地 10 周年記念事業での取り組み

平成30年度に実施した大山上池・下池ラムサール条約登録10周年記念事業において、上池・下池の水質とその改善について、里地里山学のテーマや過去の池の恵みの利活用の紹介として取り上げた。11月10日に開催したシンポジウムでは、こどもラムサールワークショップ参加者が意見を述べた他、関係者や来場者からも、池の水抜きを含めた水質改善について期待する声が聴かれた。

2. 平成31年3月議会での答弁

3月議会一般質問において、議員より上池・下池の水質とその改善策について質問があった。市民部長より以下の答弁を行った。

- 両池の水質は、平成17年度より継続的に山形大学農学部へ委託調査を行い、継続的な把握を行っている。
- 現在は富栄養化の状態にあるが、調査開始時よりこの傾向が認められており、近年急激に悪化したものではない。
- 悪化の要因として、水鳥の糞、周辺山林からの落葉等の自然的要因の他、農業用水としての池の利活用が少なくなったこと等が挙げられる。
- 今後、関係者の意見を聴きながら対応を検討したい。

3. 今後の取り組み（案）

土地改良区、大学関係者、有識者、利活用の主体者など関係者と協議を行ったうえで、今後の水質改善について、実施の可否、具体的な改善策及び実施の流れについて検討することとしたい。